

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号
特開2001-354287
(P2001-354287A)

(43) 公開日 平成13年12月25日 (2001. 12. 25)

(51) Int.Cl.⁷

B 6 5 D 85/57

識別記号

F I

B 6 5 D 85/57

テマコード* (参考)

K 3 E 0 3 6

審査請求 未請求 請求項の数12 O L (全 7 頁)

(21) 出願番号 特願2000-175909 (P2000-175909)

(22) 出願日 平成12年6月12日 (2000. 6. 12)

(71) 出願人 597089738

明晃化成工業株式会社

大阪府東大阪市衣摺五丁目12番19号

(72) 発明者 呉本 将彰

大阪府東大阪市衣摺五丁目12番19号 明晃
化成工業株式会社内

(72) 発明者 呉本 啓郎

大阪府東大阪市衣摺五丁目12番19号 明晃
化成工業株式会社内

(74) 代理人 100061745

弁理士 安田 敏雄

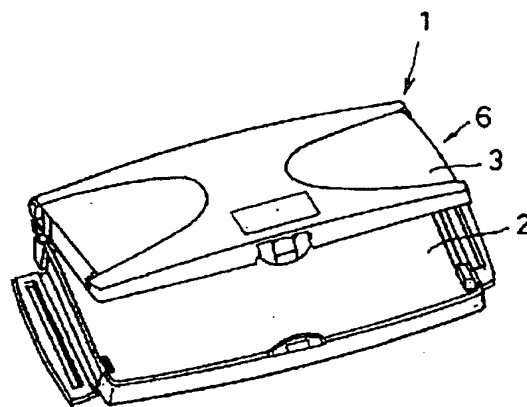
Fターム (参考) 3E036 AA05 CA06 FA01 FB02

(54) 【発明の名称】 収納ケース

(57) 【要約】

【課題】 複数の収納ケースを連結して取り扱いを容易にすると共に、収納ケースを連結した場合であっても収納物の取出・収納を容易にする。

【解決手段】 内部に収納物を収納可能なケース本体6を備えた収納ケースにおいて、前記ケース本体6は、第1ケース体2と、当該第1ケース体2にヒンジ部5を介して結合され前記第1ケース体2に対して開閉自在な第2ケース体3とを備え、前記第1ケース体3には、他の収納ケースの第2ケース体3と連結するための連結部15が設けられ、前記第2ケース体3には、他の収納ケースの第1ケース体2に設けられた前記連結部15と係合する被連結部26が設けられている。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 内部に収納物を収納可能なケース本体を備えた収納ケース (6) において、
前記ケース本体 (6) は、第 1 ケース体 (2) と、当該第 1 ケース体 (2) にヒンジ部 (5) を介して結合され前記第 1 ケース体 (2) に対して開閉自在な第 2 ケース体 (3) とを備え、

前記第 1 ケース体 (2) には、他の収納ケースの第 2 ケース体 (3) と連結するための連結部 (15) が設けられ、

前記第 2 ケース体 (3) には、他の収納ケースの第 1 ケース体 (2) に設けられた前記連結部 (15) と係合する被連結部 (26) が設けられていることを特徴とする収納ケース。

【請求項 2】 前記連結部 (15) は、前記第 1 ケース体 (2) と他の収納ケースの前記第 2 ケース体 (3) を重ね合わせた状態で、他の収納ケースの前記第 2 ケース体 (3) に設けられた前記被連結部 (26) と係合するように構成されていることを特徴とする請求項 1 記載の収納ケース。

【請求項 3】 前記連結部 (15) は、前記第 1 ケース体 (2) の側部から延設された連結片からなり、前記被連結部 (26) は、第 2 ケース体 (3) の側部に設けられていることを特徴とする請求項 1 又は 2 記載の収納ケース。

【請求項 4】 前記連結片 (15) は、第 1 ケース体 (2) の対向する側部 (12, 13) からそれぞれ延設され、

前記被連結部 (26) は、第 2 ケース体 (3) の対向する側部 (23, 24) にそれぞれ設けられていることを特徴とする請求項 3 記載の収納ケース。

【請求項 5】 前記第 1 ケース体 (2) は、矩形状に形成され、

前記連結片 (15) は、前記第 1 ケース体 (2) が前記ヒンジ部 (5) を介して第 2 ケース体 (3) と結合する結合辺 (11) と直交する辺 (12, 13) に設けられていることを特徴とする請求項 4 記載の収納ケース。

【請求項 6】 前記連結部 (15) は、前記第 1 ケース体 (2) から延設された連結片からなり、当該連結片 (15) は連結ヒンジ部 (16) を介して揺動自在に前記第 1 ケース体 (2) に設けられていることを特徴とする請求項 1～5 のいずれかに記載の収納ケース。

【請求項 7】 前記連結片 (15) は、その連結片 (15) が設けられている収納ケースの前記被連結部 (26) と係合する位置へ揺動可能であると共に、当該被連結部 (26) と係合可能であることを特徴とする請求項 6 記載の収納ケース。

【請求項 8】 前記連結片 (15) は、前記第 1 ケース体 (2) の表面に重なり合う位置へ揺動可能であり、前記第 1 ケース体 (2) には、重なり合った連結片 (1

5) が係合する被係合部 (18) が設けられていることを特徴とする請求項 6 又は 7 記載の収納ケース。

【請求項 9】 前記連結部 (15) は、前記第 1 ケース体 (2) の側部 (12, 13) から延設された連結片からなり、当該連結片 (15) には、前記被連結部 (26) と係合する係合孔 (17) が形成されていることを特徴とする請求項 1 又は 2 記載の収納ケース。

【請求項 10】 前記被連結部 (26) は、前記係合孔 (17) と係合する係合突起であることを特徴とする請求項 9 記載の収納ケース。

【請求項 11】 前記係合孔 (17) は、ベルト等の帯体 (40) を通すことができる長孔であることを特徴とする請求項 9 又は 10 記載の収納ケース。

【請求項 12】 前記連結片 (15, 15) は、第 1 ケース体 (2) の対向する側部 (12, 13) からそれぞれ延設され、各連結片 (15, 15) に設けられた前記長孔 (17) が平行に配置されていることを特徴とする請求項 11 記載の収納ケース。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、収納ケースに関するものである。

【0002】

【従来の技術】メモリーカード等の PC カードが普及するにつれ、PC カードを収納できる収納ケースが求められている。そして、ユーザの保有する PC カードの数が増えると、複数の収納ケースが必要となる。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】複数の収納ケースを保管するには、例えば、収納ケースを単に積み重ねたり、単に横に並べて置くことが考えられる。このような保管方法の場合、保管されている複数のケースは本来的にバラバラであり、複数のケースをまとめて運ぶのには不便である。また、複数の収納ケースを一括して運ぶのを容易にするために、複数の収納ケースをさらに大きなケースに収納させることも考えられる。しかし、このような大きなケースを使用する場合、収納物であるメモリーカード等を取り出すには、大きなケースから収納ケースを取り出し、さらに取り出した収納ケースからメモリーカード等を取り出すという手順となり、収納物の取出・収納が煩雑である。

【0004】本発明は、かかる事情に鑑みてなされたものであって、本発明の課題は、複数の収納ケースを連結して取り扱いを容易にすると共に、収納ケースを連結した場合であっても収納物の取出・収納を容易にすることにある。

【0005】

【課題を解決するための手段】本発明は、上記課題を解決するために、次の技術的手段を採用した。すなわち、本発明の特徴は、内部に収納物を収納可能なケース本体

を備えた収納ケースにおいて、前記ケース本体は、第1ケース体と、当該第1ケース体にヒンジ部を介して結合され前記第1ケース体に対して開閉自在な第2ケース体とを備え、前記第1ケース体には、他の収納ケースの第2ケース体と連結するための連結部が設けられ、前記第2ケース体には、他の収納ケースの第1ケース体に設けられた前記連結部と係合する被連結部が設けられている点にある。

【0006】かかる構成によれば、ケース本体は連結部と被連結部を有するので、複数の収納ケースを連結して一括した取り扱いが可能となり、持ち運び等の取り扱いが容易になる。しかも、第1ケース体は、他の収納ケースの第2ケース体と連結されるので、同一収納ケースにおける第1ケース体と第2ケース体との開閉は阻害されず、複数の収納ケースを連結したままの状態、連結された収納ケースの開閉を行うことができ、収納物の取出・収納が容易である。

【0007】そして、前記連結部は、前記第1ケース体と他の収納ケースの前記第2ケース体を重ね合わせた状態で、他の収納ケースの前記第2ケース体に設けられた前記被連結部と係合するように構成されているのが好ましい。この場合、複数の収納ケースを積み重ねて連結することができる。さらに、前記連結部は、前記第1ケース体の側部から延設された連結片からなり、前記被連結部は、第2ケース体の側部に設けられているのが好ましい。この場合、複数の収納ケースをその側部で連結することができる。そして、前記連結片は、第1ケース体の対向する側部からそれぞれ延設され、前記被連結部は、第2ケース体の対向する側部にそれぞれ設けられているのが好ましい。この場合、複数の収納ケースは対向する側部でそれぞれ連結される。

【0008】そしてまた、前記第1ケース体は、矩形状に形成され、前記連結片は、前記第1ケース体が前記ヒンジ部を介して第2ケース体と結合する結合辺と直交する辺に設けられているのが好ましい。さらにまた、前記連結部は、前記第1ケース体から延設された連結片からなり、当該連結片は連結ヒンジ部を介して揺動自在に前記第1ケース体に設けられているのが好ましい。そして、前記連結片は、その連結片が設けられている収納ケースの前記被連結部と係合する位置へ揺動可能であると共に、当該被連結部と係合可能であるのが好ましい。連結片が、その連結片が設けられている収納ケースの被連結部と係合すると、第1ケース体と第2ケース体とが固定される。

【0009】また、前記連結片は、前記第1ケース体の表面に重なり合う位置へ揺動可能であり、前記第1ケース体には、重なり合った連結片が係合する被係合部が設けられているのが好ましい。さらに、前記連結部は、前記第1ケース体の側部から延設された連結片からなり、当該連結片には、前記被連結部と係合する係合孔が形成

されているのが好ましい。そして、前記被連結部は、前記係合孔と係合する係合突起であるのが好ましい。

【0010】さらに、前記係合孔は、ベルト等の帯体を通すことができる長孔であるのがこのましい。衣服のベルトを長孔に通すことで、例えば腰に収納ケースを保持させることができる。そして、前記連結片は、第1ケース体の対向する側部からそれぞれ延設され、各連結片に設けられた前記長孔が平行に配置されているのが好ましい。平行に配置された長孔にベルトなどを通すことで収納ケースを安定して保持できる。

【0011】

【発明の実施の形態】以下、本発明の実施形態を図面に基づいて説明する。図1～図17に示すように、本発明に係る収納ケース1は、底体（第1ケース体）2と、蓋体（第2ケース体）3とをヒンジ部5によって結合したケース本体6を備えている。ケース本体6は、合成樹脂により一体的に形成されており、前記ヒンジ部5は、合成樹脂成形ヒンジである。収納ケース1は、図2に示すように、フラッシュメモリーカードMC1、メモリスティック（商標）MC2、コンパクトフラッシュ（登録商標）カードMC3等の様々な大きさのメモリーカードを収納するのに適した大きさに形成されて、メモリーカードケースとして使用するのに適している。また名刺Nを収納することもできる。

【0012】第1ケース体である底体2は、底面部8と底面部8の周縁から立設された側壁とを有している。底面部8は、平面視矩形状に形成され、底面部8の上面（内面）にはフラッシュメモリーカードが丁度収まる大きさの凹部8aが形成されている。なお、より小さいメモリーカードを収納する場合には、そのようなメモリーカードが収まる大きさの開口が形成された位置決め体（図示省略）をケース本体6に装着し、位置決め体の開口に小さなメモリーカードを嵌め込み保持させることができる。位置決め体は、メモリーカード保護のため発泡成形体で形成するのが好ましい。

【0013】側壁は、前側壁10、後側壁11、左側壁12、右側壁13とから構成される。なお、後側壁11は、ヒンジ部5を介して蓋体3と結合された結合辺でもあり、ヒンジ部5は、ケース本体の周縁（後側壁）方向を軸心方向として回動自在である。図2～図5に示すように、底体2の対向する側部である左右両側部からは、連結片15、15が左右側方に延設されている。これらの連結片15、15は、他の収納ケースと連結するための連結部であり、合成樹脂成形の連結ヒンジ部16を介して底体2と一体的に形成されている。

【0014】各連結片15は、連結ヒンジ部16によって底体2に対して前後方向を軸心方向として揺動自在に設けられており、各連結片15は、左右側壁12、13と接する位置（図4及び図5の連結片15の位置から90°立ち上がった位置）から底面部8の下面と接する位

10

20

30

40

50

置(図4及び図5の連結片15の位置から180°回転した位置)の範囲内で揺動自在である。各連結片15には、前後方向に長い長孔17がそれぞれ形成されており、各長孔17は互いに平行に配置されている。

【0015】図3及び図4に示すように、底体2の底面部8の下面(表面)には、前記連結片15と係合する被係合部18が設けられている。被係合部18は、連結片15が底面部8の下面と接して重なり合った状態で、連結片15の長孔17と係合する係合突起である。係合突起18は、底面部8の下面の左右両端付近において前後

【0016】第2ケース体である蓋体3は、天面部20と天面部20の周縁から垂下した側壁とを有している。天面部20は、底面部8と略同形状であり、天面部20の下面(内面)には、フラッシュメモリカードMC1等のコーナが当接して位置決めするための切り欠き凹部20aが形成されている。側壁は、前側壁21、後側壁22、左側壁23、右側壁24とから構成される。なお、後側壁22は、ヒンジ部5を介して底体2と結合される結合辺でもある。図2、図3及び図6に示すように、左右側壁23、24には、前記連結片15、15と係合する被連結部26が設けられている。被連結部26は、底体2と蓋体3とを閉じた状態において、連結片15が左右の側壁12、13、23、24と接する位置にあるときに、連結片15の長孔17と係合する係合突起である。

【0017】被連結部である係合突起26は、左右側壁23、24の前後に対をなして配置されており、底体2と蓋体3とを閉じた状態において、連結片15が左右の側壁12、13、23、24と接する位置にあるときに、長孔17の長手方向両端位置に嵌入するように側方突出状に形成されている。長孔17と被連結部26が係合することで、連結片15は左右側壁12、13、23、24に接した状態で保持される。また、第1ケース体である底体2に設けられている連結片15と第2ケース体である蓋体3に設けられている被連結部26とが係合保持されているので、連結片15及び被連結部26とは、底体2と蓋体3の閉状態を保持するロック機構としても機能している。

【0018】なお、連結片15、15が左右側壁12、13、23、24と接する位置にあるときに、連結片15、15が左右側方に突出しないように、左右側壁12、13、23、24には、図2及び図3に示すように、連結片15、15を受け入れる連結片受容部28が凹状に形成されている。また、図7に示すように、蓋体

3の左右側壁23、24は、底体2側に凸状に成され、蓋体2の左右側壁12、13は、凸状に形成された蓋体3の左右側壁23、24が入り込むように凹状に形成されている。

【0019】図8に示すように、底体2の側壁10、11、12、13の上端部は、ケース内側よりの部分が上方に突出した凸部30が形成され、図9に示すように蓋体3の側壁21、22、23、24の下端部は、ケース内側よりの部分か上方に凹んだ凹部31が形成されている。底体2と蓋体3とを閉じたときには、凸部30が凹部31に入り込んで確実な閉状態を実現できる。図10～図14は、上記のように構成された収納ケース1の底体2と蓋体3とを閉じた状態を示している。図4、図6及び図12にも示すように、底体2と蓋体3には、底体2と蓋体3とを閉じた状態で保持するための、閉状態保持機構33が設けられている。

【0020】閉状態保持機構33は、底体2の前側壁10の左右方向中央位置から前方下方突出状に形成された引掛突起34と、蓋体3の前側壁21の左右方向中央位置から下方に突出形成された引掛片35とを有し、引掛片35には引掛突起34が引っ掛かる引掛孔36が形成されている。引掛片35は、底体2の前側壁10と重なるように前方に迫り出して設けられている。また、底体2の前側壁10の引掛突起34が設けられている付近は上方突出に形成され、蓋体3の前側壁21はこれに対応して、引掛片35の背部が凹状に形成され、引掛片35の背面側から引掛突起34が引掛孔36に係合して引っ掛かるようになっている。

【0021】引掛突起34と引掛孔36の係合により底体2と蓋体3は閉じた状態で保持される。また蓋体3を手で開くと、引掛片35等の弾性変形により引っ掛かりが外れる。底体2と蓋体3の閉状態保持は、前側壁10、21の前記閉状態保持機構33によっても行えるし、連結片15を、図14の状態から図15のように被連結部26に係合させて、左右側壁12、13、23、24において閉状態を保持させることもできる。

【0022】収納ケース1を一つずつ取り扱う場合には、連結片15を図15のようにしておくことで、閉状態を確実に保持でき、ケース全体がコンパクトになる。また、この収納ケース1は、図16に示すように、複数の収納ケース1を上下に重ねて置くことができる。すなわち、ある収納ケース1の蓋体3の上に他の収納ケース1の底体2を重ねて置くことができる。例えば図16のように3つの収納ケース1a、1b、1cを重ねる場合、最上段の収納ケース1aの連結片15aを連結ヒンジ部16aにより下方に屈曲させ、この連結片15aを中段の収納ケース1bの被連結部26bに係合させる。これにより、最上段の収納ケース1aの底体2aと中段の収納ケース1bの蓋体3bとが連結される。

【0023】中段の収納ケース1bの連結片15bも同

10

20

30

40

50

様に、連結ヒンジ部 16 b により下方に屈曲させ、この連結片 15 b を最下段の収納ケース 1 c の被連結部 26 c に係合させる。これにより中段の収納ケース 1 b の底体 2 b と最下段の収納ケース 1 c の蓋体 3 c とが連結される。最下段の収納ケース 1 c の連結片 15 c は邪魔にならないように、底体 2 c の底面まで折り返して被係合部 18 c と係合保持させる。以上のようにすることで、2つの収納ケース 1 a、1 b、1 c は、互いに連結され一体的になる。しかも、最上段の収納ケース 1 a の底体 2 a と中段の収納ケース 1 b の蓋体 3 b とが連結され、中段の収納ケース 1 b の底体 2 b と最下段の収納ケース 1 c の蓋体 3 c とが連結されているだけであるから、各収納ケース 1 a、1 b、1 c は、連結状態を保ったまま蓋体 3 を開閉自在である。

【0024】また、図 17 に示すように、左右の連結片 15 を、被係合部 18 や被連結部 26 と係合させることなく左右突出状のフリー状態にしておいて、長孔 17 に腰のベルト 40 を通して収納ケースを腰等に保持させて、収納ケースを手軽に持ち運ぶことができる。したがって、デジタルカメラで撮影を行うときに、予備のメモ리카ードを腰ベルトに装着した収納ケースに入れて持ち運ぶことができる。なお、本発明は、上記実施形態に限定されるものではない。例えば、収納ケースを連結するための連結部の構成は、連結片 15 のように側部から延設されたものに限定されず、底面部 8 と天面部 20 にこれらの両面を凹凸嵌合等により連結する部材を形成してもよい。

【0025】また、上記実施形態では連結片 15 が左右の側部から延設されているが、前後の側部から延設されていてもよい。この場合、連結ヒンジ部は左右方向を軸心方向として揺動するものとすればよい。また、上記実施形態では、連結片 15 と被連結部 26 又は被係合部 18 との係合を、孔と突起の係合・嵌合により構成したが、他の係合構造を採用することもできる。また、上記実施形態では、底体 2 を第 1 ケース体とし、蓋体 3 を第 2 ケース体としたが逆であってもよい。すなわち、底体 2 が第 2 ケース体で、蓋体 3 を第 1 ケース体とし、蓋体 3 に連結部 15 を設け、底体 2 に被連結部 26 を設けて*

* もよい。

【0026】

【発明の効果】本発明によれば、複数の収納ケースを連結できるので取り扱いが容易になると共に、複数の収納ケースを連結したままで個々の収納ケースの開閉を行えるので、収納物の取出・収納が容易である。

【図面の簡単な説明】

【図 1】 収納ケース 1 の斜視図である。

【図 2】 収納ケースを開いた状態の平面図である。

【図 3】 収納ケースを開いた状態の底面図である。

【図 4】 底体の正面図である。

【図 5】 図 3 の A-A 線断面図である。

【図 6】 蓋体の正面図である。

【図 7】 収納ケースを開いた状態の側面図である。

【図 8】 図 3 の B-B 線断面図である。

【図 9】 図 3 の C-C 線断面図である。

【図 10】 収納ケースを閉じた状態の平面図である。

【図 11】 収納ケースを閉じた状態の正面図である。

【図 12】 図 11 の D-D 線断面図である。

【図 13】 収納ケースを閉じた状態の底面図である。

【図 14】 収納ケースを閉じた状態の左側面図である。

【図 15】 収納ケースを閉じた状態の右側面図である。

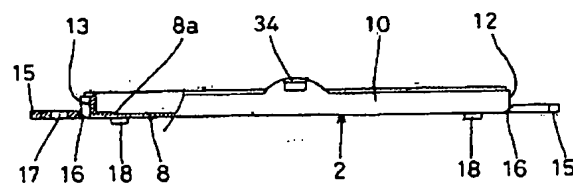
【図 16】 複数の収納ケースを積み重ねて連結した状態を示す正面図である。

【図 17】 連結片の長孔にベルトを通した状態を示す正面図である。

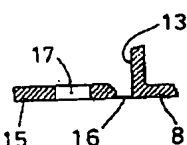
【符号の説明】

- 1 収納ケース
- 2 底体
- 3 蓋体
- 5 ヒンジ部
- 6 ケース本体
- 15 連結片 (連結部)
- 16 連結ヒンジ部
- 17 長孔 (係合孔)
- 18 被係合部
- 26 被連結部

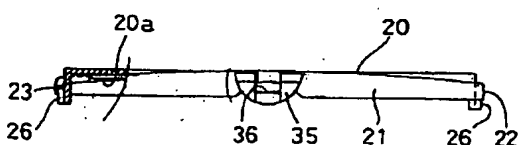
【図 4】



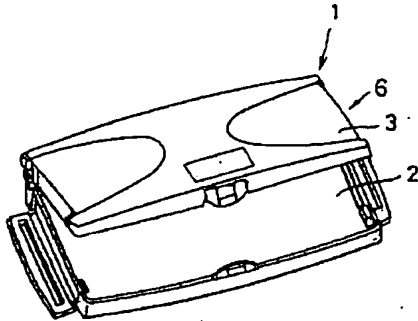
【図 5】



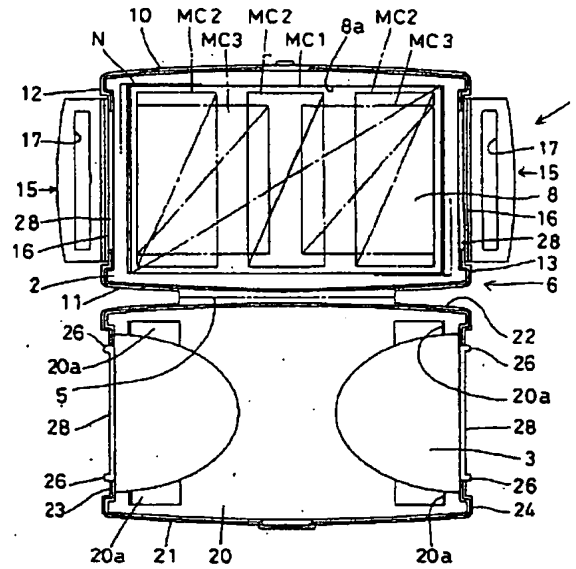
【図 6】



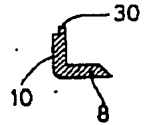
【図 1】



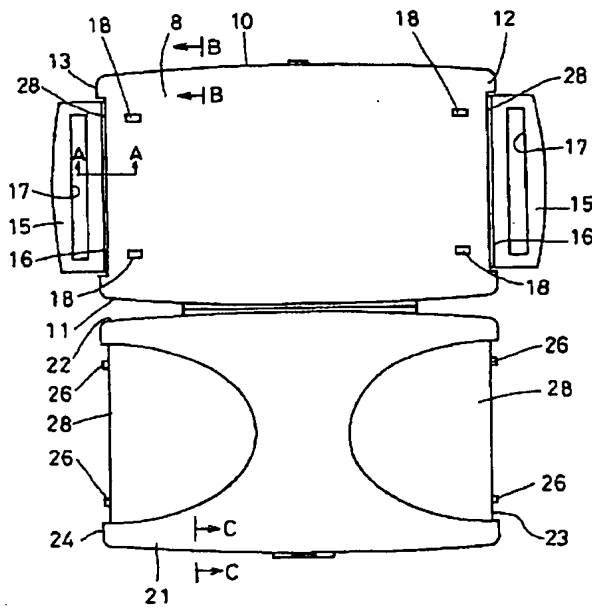
【図 2】



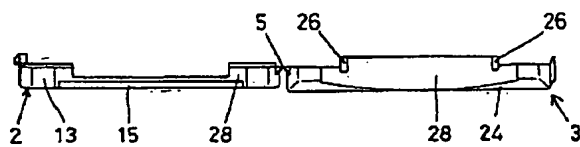
【図 8】



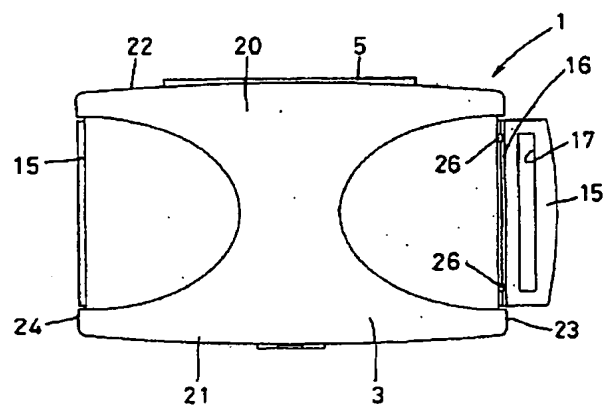
【図 3】



【図 7】

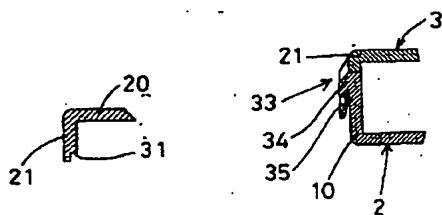


【図 10】

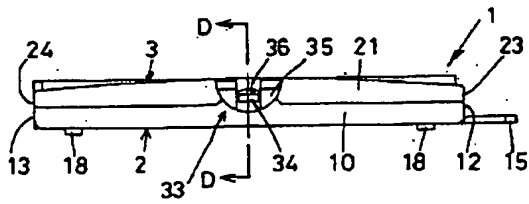


【図 9】

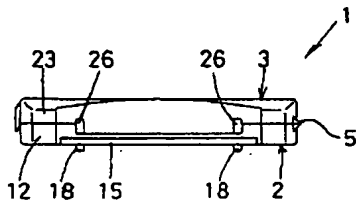
【図 12】



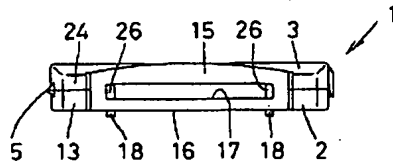
【図11】



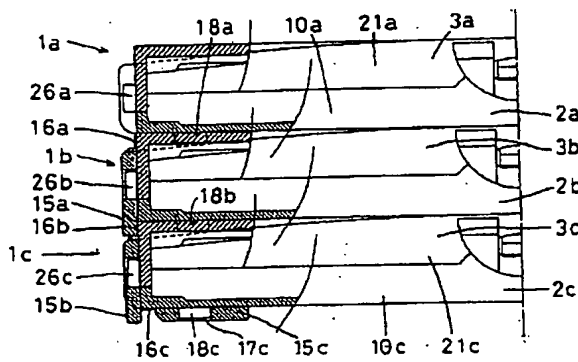
【図14】



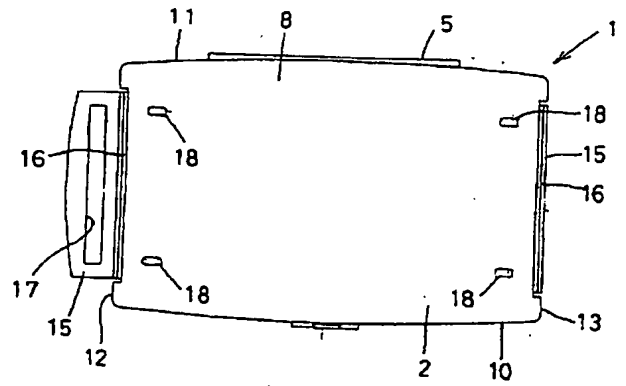
【図15】



【図16】



【図13】



【図17】

